

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2013年2月）

発表日：2013年4月5日（金）

～先行指数が大幅上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

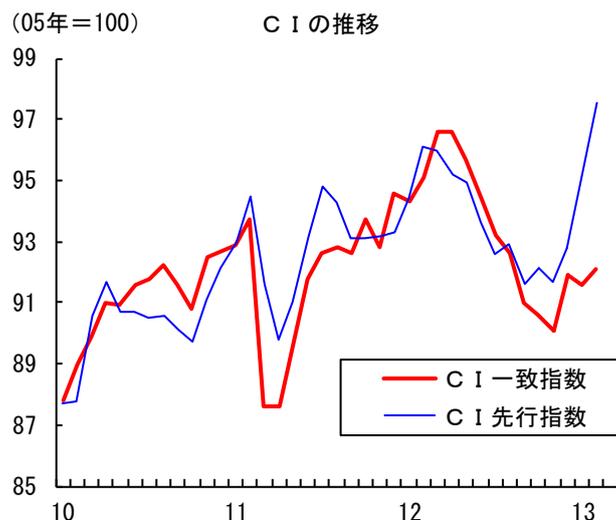
内閣府から公表された2013年2月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+0.5ポイント上昇した。プラスではあるが、1月分が前月差▲0.3ポイントとマイナスだった後には戻りが弱い印象を受ける。これは、2月の鉱工業生産が前月比▲0.1%と予想外の悪化を見せたこと等を反映したものである。C Iの回復基調は続いているが、足元の回復ペースは緩やかなものにとどまっている。

一方、C I先行指数は前月差+2.5ポイント（1月：+2.2ポイント）となった。これで3ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も非常に大きい。内訳では、東証株価指数や消費者態度指数のほか、生産財在庫率指数、中小企業売上げ見通しD.I.などのプラス寄与が大きかった。先行指数は昨年9月～11月を底として改善傾向にある。

一致指数の上昇ペースは緩やかなものにとどまっているが、先行指数が大幅に改善していることは心強い。C I一致指数の先行きについても、当面回復ペースが緩やかなものにとどまる可能性があるが、海外経済の持ち直しや円安効果の発現などから輸出が増加していくにつれ、回復感が徐々に強まると予想している。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月までの「悪化」から、「下げ止まり」に上方修正された。基調判断の上方修正は、2012年2月（上方への局面変化 → 改善）以来、1年ぶりのことになる。

ちなみに、次に「下げ止まり」から「上方への局面変化」に上方修正されるには、「7ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」という基準を満たす必要があるのだが、これには少し時間がかかりそうだ（2月時点で7ヶ月移動平均の値はマイナスにとどまっている）。先行き順調に改善した場合でも、早くも5月分での上方修正といったところだろうか。



(出所)内閣府「景気動向指数」